

15 リス〈げっ(齧)歯目、リス科、リス属・台湾リス属〉

- ア 和名：クリハラリス（台湾リスも含む）
英名：Pallas's squirrel
学名：*Callosciurus erythraeus*
分布：シッキム、中国南部からマレーシア、台湾



【クリハラリス（台湾リス）】

（財）東京動物園協会提供

- イ 和名：台湾リス
英名：Taiwan squirrel
学名：*Callosciurus erythraeus*
taiwanensis (Bonhote, 1901)

- ウ 和名：トウブハイロリス
英名：Gray squirrel
学名：*Sciurus carolinensis*
分布：テキサス東部からカナダ南東部



【トウブハイロリス】

（財）東京動物園協会提供

(1) 動物の特徴と同定

ア クリハラリス

分布：マレー半島からタイ西部、ビルマ、アッサム、シッキム、ベトナム、カンボジア、ラオス、中国、台湾

特徴：体色は暗褐色、腹部は濃い栗色、分布域が広く多数の亜種（22 亜種から44 亜種）に分けられているが、台湾西北部に分布する*Callosciurus erythraeus roberli* (Bonhote, 1901) にクリハラリスの亜種名を与える場合もある。現在では、*Callosciurus erythraeus* に対してクリハラリスの和名を使用している。

体長：19～22cm

尾長：18～20cm

体重：280g～390g

習性等：台湾リスに類似することが多いと考えられる。

イ 台湾リス

分布：台湾

特徴：体色は黒色と黄土色の霜降り状で、腹面はベージュ色、あるいは灰褐色である。四肢は灰色を帯び、尾は毛が密に生え太く、灰色で小さな斑が混じり、先端に向かい黒色が増す。

体長：18～23.5cm

尾長：16.5～20.5cm

体重：260g

習性等：

- ・台湾に分布している *Callosciurus erythraeus taiwanensis* (Bonhole, 1901) をタイワンリスといい、クリハラリスの一亜種とされる。このリスを別種のハイガンラリス=*Callosciurus caniceps* (Gray, 1842) の一亜種とする説 (J. R. Ellerman & T. C. S. Morison-scotl) があるが、台湾にはハイガンラリスは分布しないとする説 (A. Duff & A. Lawson 他) があり、クリハラリスの一亜種とする説が通用している。
- ・昼行性で常緑の広葉樹林帯に生息し、木の種子、果実、花、樹皮、小鳥の卵等を食す。周年繁殖が見られ、年2～3回出産する。1産2～3仔である。
- ・我が国では、1935年東京都伊豆大島の公園から逃げ出したものが同島に野生化している。その後神奈川県、静岡県、岐阜県、和歌山県等で野生化している個体が確認されている。
- ・神奈川県鎌倉市においては庭木や電話線がかじられ、被害が見られる。伊豆大島においては、島の産業の一つであるツバキの実の食害が問題になっている。

ウ トウブハイイロリス

分布：テキサス東部からカナダ南東部

特徴：体色は灰色で腹部は白色、耳の先端に長毛は見られない。6 亜種 (D. E. Willson & S. Ruff) が知られている。昼行性で森林、カシの林に見られ、木の芽、木の実、果実、キノコ等を餌としている。

体長：51～77cm

尾長：24～38cm

体重：330g～750g

習性等：

- ・1月から2月が交尾期に当たり、妊娠期間は40日程で出産は2月～3月に見られる。また6月から7月に交尾をし、7月後半から9月にかけて2出産が見られる。1回の出産で5～6頭が産まれる。アメリカでは各地の公園等で良く馴れた個体が見られる。
- ・この種類のリスはイギリスや南アメリカに移入されており、イギリスでは1889年ベッドフォードシャーに350頭が移入され、1952年には生息地が200km²にも拡大し、150万頭が生息していると推定されている。

(2) 保定方法とマイクロチップの埋込み

ア 保定の方法

A 器具を使用しない保定法

馴れているリスは、片手を腹の下において持ち上げ、もう片方の手で背中を押さえて保定する。捕まえようとして尾をつかむと、尾の鞘が抜けてしまう。トカゲは敵に襲われると自分の尾を切って逃げるが、リス類で尾の鞘が抜けるのも同じ効果がある。

B 器具を使用した保定法

細かい目の玉網を用いて捕獲する。リスが巣箱にいる場合、巣箱の出入り口の穴に布製の袋を当てると、リスは自発的に袋の中に入ることが多い。袋に入ったら、皮手袋をはめた手で袋の上から親指と人差し指で頭をやさしくつかみ、動けないように保定する。保定は静かに、やさしく、すばやく行う。リスにとって捕獲が大きなストレスになると、呼吸が抑制され、虚脱状態に陥ることがある。このような状態のリスは、暗い場所において、安静を保ち、回復を待つ。



【器具を使用した保定法】

C 特に注意すべき事項

化学的保定を行う場合は、短時間であっても体温低下に注意する。術中は動物を保温パット上に置くなどの体温管理が必要となる。麻酔中の管理は、呼吸数、体温、心拍数をモニターするなど定法に従う。覚醒期は周囲の温度を 36℃ に保つ。

D 麻酔法

マイクロチップの埋込み処置は短時間で終了するため、原則的には深い麻酔は必要がない。麻酔ボックスでイソフルランを用いた吸入麻酔が最も安全で動物にストレスが少ない。イソフルラン 5% で導入し、2% で維持してマイクロチップを埋込む。術後、5 分間は酸素吸入を行って覚醒を促す。ケタミンのみでは十分な無痛効果は期待できないが、鎮痛剤を併用することで軽い外科麻酔と筋弛緩が得られる。例えば、ケタミン 20~100mg/kg 筋肉内注射+ジアゼパム 2~8mg 筋肉内注射または腹腔内投与、ケタミン 40~100mg/kg 筋肉内注射+メドミジン 0.25~1.0mg/kg 腹腔内投与などで不動化効果が得られる。

イ マイクロチップの埋込みの方法

A 埋込みの部位

左右の肩甲骨間の皮下に埋めこむ。

B マイクロチップ埋込みの実際

玉網に入れたままマイクロチップを埋込むときは、診察台の上で頭の付け根をしっかり持ち横臥姿勢とし、上記皮下に埋込み器の針を刺入する。袋に入っている場合は、袋の中にある頭の付け根をしっかり保定し、体を袋から出す。リスを診察台にのせ、頭の付け根をしっかり持ったまま横臥あるいは伏臥姿勢とし、同様に刺入する。化学的保定時は、物理的保定時と同様に安全のために頭の付け根をつかみ、横臥あるいは伏臥姿勢としてマイクロチップを埋込む。術部はイソジン綿か 70% アルコール綿で消毒し、埋込み器の針を上記の皮下に穿刺しマイクロチップを埋込む。マイクロチップの脱落を防ぐため、皮膚の穿刺痕に外科用接着剤を塗布し、外用散剤を散布する。

C 特に注意すべき事項

マイクロチップの埋込み時期は離乳後（生後 2 ヶ月）を目安とする。マイクロチップを埋込みした部分から出血が認められた場合は、同居個体のカニバリズムを誘発することがあるため、同居を見合わせたほうが良い。